

袋湾（紀伊半島南西部）より収集したヒメツバメウオと飼育経過

山本泰司・太田 満・田名瀬英朋

Juveniles of *Monodactylus argenteus* (Linnaeus) (Pisces, Monodactylidae) collected from Fukuro Bay, southwestern Kii Peninsula, and their keeping in the tanks.

TAIJI YAMAMOTO, MITSURU OHTA & HIDETOMO TANASE

ヒメツバメウオ *Monodactylus argenteus* (Linnaeus, 1758) は、スズキ目・ヒメツバメウオ科に属し、国内では宮古島以南に分布すると報告されている(益田ほか, 1975; 林, 1984; 波戸岡, 1993)。成魚は全長 23-25 cm に達し、砂泥質の汽水域を中心にした浅海に生息するが、幼魚は淡水域でも見られる(益田ほか, 1975; Prince Jeyaseelan, 1998)。本種は観賞魚として古くから知られ、瀬戸臨海実験所水族館でも 1960 年代に熱帯魚商から購入した幼魚を飼育・展示したことがある。

筆者らは、本種の幼魚 6 尾を 1999 年 8 月・9 月に袋湾(和歌山県白浜町)より収集した。これは、分布北限の記録を大きく更新するものである。また、同個体は当水族館で継続して飼育している(2000 年 5 月現在, 4 尾を展示中)。ここでは、収集時の状況とその後の飼育経過を報告する。

収 集

・1999 年 7 月 19 日: 袋湾内にある白浜漁業協同組合富田浦支所の魚類生簀用筏の上から、5 尾(全長約 3 cm)の幼魚が水深約 50 cm-2 m で生簀の周辺を群泳しているのを発見し、筏の上から手網での捕獲を試みたが、採集できなかった。

・同年 8 月 4 日: 素潜りにより、5 尾の群れのうち 1 尾(表 1)を手網で捕獲した。水族館に持ち帰り、予備水槽(100 l, 総量 43 m³の海水循環式)に收容した。筆者らは採集の際に、何度も群れを分断し、執拗に魚を追い回したが、本種の場所への執着と群れとしての結びつき

は強いようで、筏の下から泳ぎ去ることはなく、放置するとすぐに群れを再形成した。

・同年 8 月 12 日: 岡本昭生氏が 7 月下旬に筏から手網で捕獲し、筏より吊り下げた生簀に收容していた 1 尾(表 1, 図 1a)を貰い受け、上記予備水槽に收容した。

・同年 9 月 7 日: 岡本昭生氏が筏の上から釣りで捕獲した 4 尾(表 1)を同氏から購入し、上記水槽に收容した。

飼 育

8 月下旬, 8 月 12 日に収集した個体が水槽内で行方不明となった。何らかの原因で死亡後に、同居していたムラサキウニに食われた可能性がある。また、9 月 9 日には 9 月 7 日に収集した 4 尾のうち 1 尾が死亡した(ホルマリン標本)。したがって、収集した計 6 尾のうち 4 尾の飼育を継続している(図 1b に、そのうち 1 尾を 2000 年 5 月 10 日に撮影した写真を示す)。1999 年 11 月 10 日に上記予備水槽に生存していた 4 尾を 303 号水槽(1 m³の総ガラス水槽, 総水量 17 m³の循環式に組み込み, 冬季は 22-23 °C に保温)に移し、展示した。この水槽で同居している動物は、スイジガイ 1 個体・クリイロサンゴヤドカリ 2 個体・コガネオニヤドカリ 3 個体・マダラトラギス 1 尾・ブチススキペラ 3 尾・クロモンガラ 1 尾である。これらの動物と同居させていても、捕食や外傷などの問題はこれまでのところ発生していない。

餌は、予備水槽に收容していた時には、ミンチ肉(マアジ肉・オキアミ・イサザアミ・ウ

表 1. ヒメツバメウオの計測値の変化

(全長・体長: mm, 湿重: g)

1999年8月4日			8月12日			9月7日			11月10日			2000年5月10日																				
全長	体長	湿重	全長	体長	湿重	全長	体長	湿重	全長	体長	湿重	全長	体長	湿重																		
● 43.0	32.5	1.9	→	55.7	44.1	4.5	<table border="1"> <tr><td>77.8</td><td>62.7</td><td>12.9</td></tr> <tr><td>78.6</td><td>62.0</td><td>13.4</td></tr> <tr><td>79.7</td><td>60.7</td><td>11.9</td></tr> <tr><td>80.1</td><td>62.8</td><td>13.8</td></tr> </table>	77.8	62.7	12.9	78.6	62.0	13.4	79.7	60.7	11.9	80.1	62.8	13.8	<table border="1"> <tr><td>108.6</td><td>85.9</td><td>33.1</td></tr> <tr><td>111.4</td><td>84.9</td><td>33.5</td></tr> <tr><td>112.1</td><td>82.5</td><td>29.6</td></tr> <tr><td>118.2</td><td>90.7</td><td>40.2</td></tr> </table>	108.6	85.9	33.1	111.4	84.9	33.5	112.1	82.5	29.6	118.2	90.7	40.2
77.8	62.7	12.9																														
78.6	62.0	13.4																														
79.7	60.7	11.9																														
80.1	62.8	13.8																														
108.6	85.9	33.1																														
111.4	84.9	33.5																														
112.1	82.5	29.6																														
118.2	90.7	40.2																														
● 28.0	21.8	0.5	(8月下旬行方不明)			● 64.5	50.3	6.7																								
						● 68.0	51.9	9.0	(9月9日死亡)																							
						● 69.3	53.0	7.9																								
						● 70.6	53.2	9.1																								

※9月8日以降は個体識別していない

サギ用固形飼料をミキサーにかけたものと冷凍イサザアミを、303号水槽に収容してからは、冷凍オキアミ・イサザアミ・ミンチ肉を日に2回、マジ切身を週に2回与えている。

収集時とそれ以降における各個体の計測値の変化を表1に示す。なお、9月7日に4尾を収集してからは、個体識別を行っていない。8月4日採集の個体は2ヶ月間で全長で1.3倍、体長で1.4倍、湿重で2.4倍成長した。また、9月7日以降の4個体を平均すると、11月までの次の2ヶ月間で、全長と体長で1.2倍、湿重で1.8倍、また11月から2000年5月までの6ヶ月間でそれぞれ1.4倍、2.6倍に成長した。

考 察

ヒメツバメウオの幼魚は、淡水域にも侵入することがあるが、普通はマングローブ湿地や小河川の汽水域に生息する(林, 1989; Prince Jeyaseelan, 1998)。袋湾は、紀伊水道に直接開口した、細長い、小さな湾(湾口幅120m, 奥行き650m, 最大幅200m)で、最奥部には小川が流入し、湾中央部より奥では、生息する動物から見て内湾的な環境が維持されている(田名瀬・目良, 1999)。今回、ヒメツバメウオの幼魚が採集された生簀用筏(10m×20m)は、湾口から約400m奥に位置し、水深3-4mの砂泥底の上に浮かべられている。湾内には岩礁や突堤、船着場の岸壁があるものの、マングローブ湿地の植物のような上方からの遮

蔽物がないため、本種の幼魚は、多くの網製生簀やロープが垂れ下がり、フロートが浮かぶ筏の下を生息場所として選択したものと思われる。

1991年から1999年秋まで長期に及んで、黒潮は潮岬への接岸傾向を維持していた。おそらくこの現象に関連して、紀伊半島南部の沿岸では、それまで未確認だったり、稀少だった南方系魚種が相次いで記録されるようになった(たとえば福田, 1994, 1999; 御崎, 1995, 1997; 山本ほか, 1997; 小寺, 1998; 田名瀬, 1998; 田名瀬ほか, 1999)。本種の出現も、このことと関連していると思われる。本種の産卵生態は不明である(林, 1989; Prince Jeyaseelan, 1998)が、1999年の春から夏にかけても黒潮の接岸傾向が維持されていた(海上保安庁水路部, 1999)ことから、宮古島以南で生まれた稚魚が黒潮に乗って運ばれ、袋湾内に定着したものと考えられる。

稿を終えるにあたり、分布に関する情報をいただいた京都大学総合博物館の中坊徹次博士、採集の労をとられた白浜漁業協同組合富田浦支所組合員の岡本昭生氏、飼育の協力をしていただいた瀬戸臨海実験所の榎山嘉郎、興田喜久男の両氏に深謝する。

引用文献

福田照雄. 1994. 海中展望塔に集まる魚(17). マリンパピリオン, 23 (2): 4-5.
 ————. 1999. 海中展望塔に集まる魚(22).

- マリンパビリオン, 28 (3): 2-3.
- 波戸岡清峰. 1993. ヒメツバメウオ科. *in* 中坊徹次編, 日本産魚類検索-全種の同定, p.767, 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 1984. ヒメツバメウオ科. *in* 益田一ほか編, 日本産魚類大図鑑, 初版, p.160, 東海大学出版会, 東京.
- . 1989. ヒメツバメウオ. *in* 川那部浩哉・水野信彦編, 日本の淡水魚, p.521, 山と溪谷社, 東京.
- 海上保安庁水路部. 1999. 海洋速報. 平成 11 年第 8 号-17 号.
- 小寺昌彦. 1998. 本州初記録 アサドスズメダイとハコベラの採集例. マリンパビリオン, 27 (7): 3.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑, 南日本の沿岸魚. 379pp., 東海大学出版会, 東京.
- 御前 洋. 1995. いそこじき 15 本州初記録の魚. マリンパビリオン, 24 (8): 5.
- . 1997. 黒潮からの便り 10 本州初記録の魚 3 種の紹介. マリンパビリオン, 26 (1): 3.
- Prince Jeyaseelan, M.J. 1998. Manual of fish eggs and larvae from Asian mangrove waters. 193pp. Science and technology, UNESCO Publ.
- 田名瀬英朋. 1998. 紀伊半島南西岸で採れたイトウダイ科魚類 2 種. 南紀生物, 40 (1): 117-118.
- . 山本泰司・太田 満. 1999. 田辺湾で採集したヘコアユ. 南紀生物, 41 (1): 55-56.
- . 目良 渉. 1999. 和歌山県白浜町の袋湾で採集したシボリ(テンジクダイ科). 南紀生物, 41 (2): 109-110.
- 山本泰司・太田 満・荒賀忠一. 1997. 富田川(和歌山県)で採捕したタナゴモドキ. 南紀生物, 39 (2): 132-134.

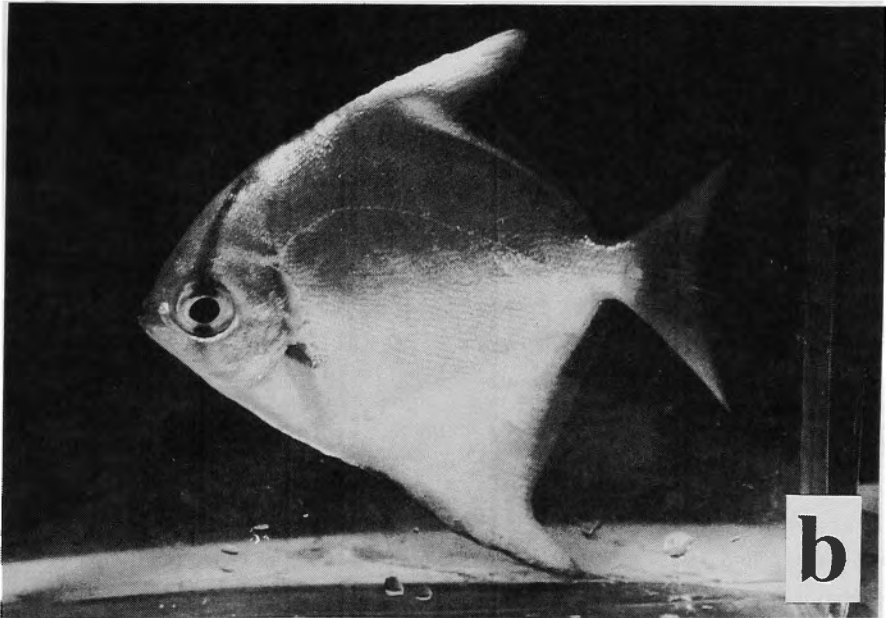
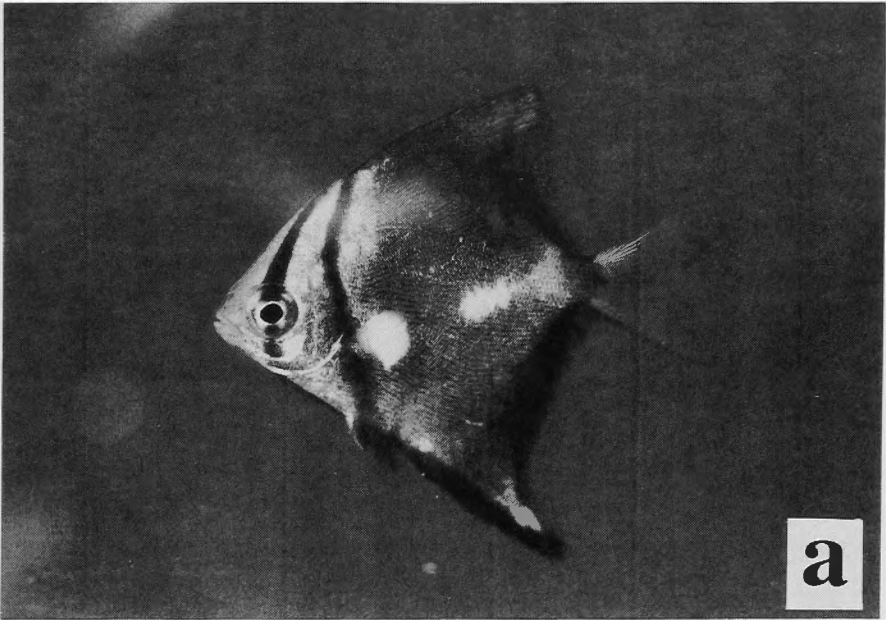


図1. a: ヒメツバメウオ幼魚 (1999年8月12日収集個体). 全長28.0 mm. 8月12日撮影.
b: 若魚. 全長111.4 mm. 2000年5月10日撮影.